



vol.35
2023.10

美 び 三

広島県看護協会三原・尾道支部会員数

保健師	27人(入会率18%)
助産師	39人(入会率72%)
看護師	1,708人(入会率54%)
准看護師	115人(入会率9%)
合 計	1,889人(入会率41%)

支部長挨拶

地域に密着した 安心できる看護の提供

三原城町病院 大下 ゆかり



平素より当支部活動の運営にご支援、ご協力をいただきありがとうございます。
今年度より支部長を務めさせていただきます三原城町病院の大下ゆかりと申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

2023年5月にコロナ感染症が5類となり本年度から様々な研修会や活動が参集で開催される予定です。まちの保健室、保健福祉まつりも再開となりますので感染症予防につとめながら地域の方々との交流も深めていきたいと思っております。

支部活動を通して地域、施設、病院等多職種での連携の機会を設け会員の皆様の力に少しでもなれるよう邁進していこうと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

三原・尾道支部役員一同より

三原・尾道支部の支部活動は滞りなく実施できており、会員皆さまのご協力に感謝しております。
今回は、支部役員が支部運営や活動を行う上で重要な役割を担ってくれている三原・尾道支部事務員の栗村あゆみ氏の紹介をしたいと思います。栗村氏は研修会などの表舞台には参加しないのでご存じない方が多いと思いますが、役員会や施設代表者会議の下準備に始まり、研修会開催にあたっては会場予約および役員や講師から送られてくる資料の整理、また、広島県看護協会との連絡など多岐にわたる業務で支部活動を支えてもらっています。支部役員にとって心強い欠かせない存在の人であります。

支部長をはじめ役員・事務員で、会員の皆さまの役に立つ活動を進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

三原・尾道支部 活動報告

救急蘇生研修に参加して

公立世羅中央病院 3A病棟 丸山 李緒

この度、三原・尾道支部 救急蘇生研修に参加しました。今年から新人看護師として働き始め、以前にも救急蘇生の研修を受けたことはありましたが、実際に救急蘇生の場面に当たったことはなく、自分の手技やアセスメント力には自信がありませんでした。今回の研修では、実際に急変が起こった時のことを想定して、発見から応援要請、心肺蘇生、気管挿管までを模型を使って演習しました。グループで行い、胸骨圧迫では強く、速く、絶え間なく続けるためにチームで声掛けをしながら協力して動くことの大切さがわかりました。気管挿管でも、挿入時の介助方法や観察項目が分かり、どうしてそうするのか、観察から何が分かるのか、根拠をしっかりと理解しておくことがスムーズで安全な処置に繋がるとわかりました。講師の先生方から講評もあり、自分のできているところ、まだできていないところもわかりました。特に胸骨圧迫時の

リズムや押す深さは実際に経験しなければ感覚をつかむことは難しいと思います。実際に他者に見てもらいながらやってみることで、正しいリズムや深さを身に着けることができたと思います。今回の研修で学んだことを、今後の急変時の対応にも役立てていきたいと思っています。



対人能力向上研修に参加して

尾道市立市民病院 檀上 恵美子

「皆さん、こんな経験ありませんか?」の語りで始まる小林先生の講義は、日常の「あるある事例」を通して、考え方や対処法のエッセンスが組み込まれた内容でした。相手が患者さんでも職場の同僚であっても、一つの側面から目の前に起こっている事象のみに着眼すると、苛

立ちや怒りなどネガティブな感情が芽生えてくるといいます。「何がその人をそうさせているのか」真の理由を知ることができ、ネガティブな感情ではなく客観的に前向きに考えることができ、よりよい問題解決につながるのではないのでしょうか。私たちは「対人関係」で悩むことも多くありますが、事象の捉え方や見かたを変えることで日々のストレスが軽減し、よりよい関係が築けることを再認識した研修会でした。



交流事業「アーティフィシャルフラワーアレンジメント」に参加して

清幸会三原城町病院 4A病棟看護師 上田 裕美

令和4年12月3日、三原・尾道支部の交流事業に参加しました。参加者は、講師の先生よりアレンジメント作成の講習を受け、それぞれのアレンジメントを作成しました。交流では、活発な意見交換を行い、参加者それぞれの経験やアイデアを共有することができました。また様々な施設や病院で働く仲間たちとの繋がりを感じることが出来ました。それは同じ看護師の立場でも働き方や環境が異なることに気づき、お互いに刺激を受ける場となりました。

交流後、今回学んだアレンジメント作成における手指の細かい運動は、私の所属する回復リハビリ病棟の患者さんに役立つのではないかと、アレンジメントについて調べてみました。すると、アレンジメント作成における手指の運動や構成の過程は、脳卒中や高次脳機能障害による障害がある患者さんにおいて、記憶力や注意力の改善の効果、視空間認知能力の改善効果があることを知りました。

今回の交流事業に参加し、地域の看護師の交流だけではなく、患者さんに役立てる知識を得る等、多くの成果を得ることが出来ました。今後も学んだスキルやアイデアを活かし、看護の仕事においてさらなる成長を目指していきます。



看護研究発表会に参加して

三原赤十字病院 横山 友賀

令和5年3月4日(土)に、広島県看護協会三原・尾道支部看護研究発表プログラムに参加させていただきました。各病院の研究者の方々の素晴らしい研究発表を聞くことができ、大変勉強になりました。

今回は、「一般病棟における転倒転落防止に向けた取り組み」、「円背のある患者様の手術中の安全安楽な体位」、「受け持ち制度の導入」、「外来看護における意思決定支援と緩和ケアの現状分析」、「病棟看護師における身体抑制に向けての取り組み」の5題の発表がありました。転倒転落防止と身体抑制に向けての研究は、高齢化社会の日本において取り組み続けなければならないと考えさせられました。受け持ち制度の導入、外来看護における意思決定支援と緩和ケアの現状分析の研究は、患者個人のパーソナルな部分に向き合っておられました。円背のある患者様の手術体位については、手術中の苦痛軽減のために安全安楽な体位について考え、工夫されていました。どの発表も、自施設で身近に感じてい

る課題でした。特に、転倒転落防止・身体抑制は倫理的配慮と相反する場合が多く、私自身も日々葛藤しています。研究内容を参考に、転倒転落防止・身体抑制に取り組んでいきたいと思います。



令和5年度 事業計画

研修事業

- 支部総会後研修会／4月8日
「アンガーマネジメント」
- 社会経済福祉研修会／8月4日
「せん妄・認知症について」
- 救急蘇生研修会／9月9日
- 組織強化研修会／11月4日
「異常の早期発見ー呼吸数測定の必要性ー」

研究事業

- 看護研究発表会／令和6年2月24日

看護広報事業

- 進路相談会／7月22日
- 支部だより発行／10月31日

関連職種地域連携事業

- 関連職種地域連携研修会／10月7日
「摂食・嚥下障害のある患者のケア」

交流事業

- 心のケア／12月2日

地域看護事業

まちの保健室

- 尾道みなとまつり
- 三原市民保健福祉まつり
- おのみち市民健康まつり
- フジグラン三原
- 尾道市総合福祉センター

令和5年度 役員紹介

役員集合



役員名	氏 名	所 属
支部担当理事	川村 美香	尾道市立市民病院
支部長	大下ゆかり	三原城町病院
副支部長	森 深雪	村上記念病院
副支部長	吉田 エリ	因島医師会病院
幹事(総務)	岡田 真弓	JA尾道総合病院
幹事(財務)	森谷 恵美	興生総合病院
幹事(社経)	長谷 茂	公立世羅中央病院
幹事(社経)	新谷 圭子	介護医療院 白龍湖
幹事(社経)	徳重美登恵	松尾内科病院
幹事(教育)	下川さおり	尾道市医師会看護専門学校
幹事(教育)	村上 有記	三原市医師会病院

編集後記

会員の皆様のご協力のもと、広報誌「美三35号」を無事に発行することができました。新型コロナウイルス感染症が5類となりましたが、会員の皆様におかれましては、まだまだ大変な状況が続いておられることでしょう。皆様が安心して参加できる場を提供できるよう、環境を整えて行きたいと考えています。

これからも支部の活動内容を皆様にお伝えできるよう頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

徳重 美登恵・新谷 圭子・長谷 茂

〔発 行 日〕 令和5年10月31日発行

〔発 行 所〕 公益社団法人広島県看護協会
三原・尾道支部事務所
〒723-0014 三原市城町3-1-1-210号
TEL/FAX:0848-64-1616
E-mail: s-mihara@nurse-hiroshima.or.jp

〔発行責任者〕 大下 ゆかり